

第4学年 社会科学習指導案

小単元名

4年「小石原焼と小石原村の人々」

1、こんな子どもたちだから（児童観）

- 子どもたちは、前小単元で福岡県が自分たちの住んでいる都市とは違う地形条件を持った市町村を含む広がりであることや、それぞれの地域でその地形条件に合った産業が盛んであることに興味を持って調べてきた。
- 子どもたちは今までの調べ活動においてインタビューをしたり、見学をするなどして資料を集め、自分の考えを作るようになってきているが、1つの事実だけで工夫や努力を考えてしまい、自分の考えを深め確実にしていくまでにはなっていない。
- 初めて目にし触れたものに対して「なぜだろうか」「調べてみたい」と興味を持つなど、知的好奇心は高く、積極的に調べ活動を行うことができるようになっている。しかし、活動意欲が長続きせず、教師の指示で動き学習が進んでしまうことがある。
- 毎時間の学習では、その日の学習の「めあて」をつかんで学習を進めることができるようになっている。しかし、単元途中で学習問題に対する意識が途切れがちになるため、自分が立てた予想から考えを作りだし、深めていくところまで十分にできていない。

以上のような子どもたちの背景には、一人ひとりの考えを伝え合う交流活動がうまく機能していなかったり、学習問題に立ち返りながら学習を進めていく習慣が十分に身につけていないため、自分の考えの変容を把握し、見通しを持った学習活動を展開していくことができていなかったためではないかと考える。

2、こんな教材で（教材観）

- 山に囲まれた小石原村は、子どもたちが住んでいる地域とは、地理的条件が異なり子どもたちが興味・関心を持ちやすい。また、古くからつたわる小石原焼が地場産業として村に位置付き、子どもたちの中にもその焼き物を家庭において使用するなど、子どもたちにとって身近な陶器である。小石原焼を学習することで、県のさまざまな地域で伝統ある産業が発展し、それが県の特色の一つとなっていることを調べていくことができる教材である。
- 小石原村では、地形や自然条件を生かして陶器づくりが盛んにおこなわれるようになった。小石原焼を追究していくことで、300年以上の伝統を継承している村の人々の生活や思いを知ることができるだけでなく、地場産業として村を支える基幹産業に位置付けていることを理解することができる。小石原焼の歴史や職人の技法・思い、小石原焼を支える村の人たちのかかわりや、焼き物を求めて集まる人たちの存在など、県の特色やよさについて自分の考えをつくるうえで根拠となる事実が収集できる地域である。
- 小石原焼の伝統を受け継いできた窯元の取り組みと小石原焼のよさを伝え広げてきた村の人たちの取り組みの2つの要素を持った小石原焼は、複数の視点からの追究活動が可能な教材である。この追究活動を「考えマップ」に表現していくことで、視覚的に事実と考えを整理することができ、考えの道筋を明らかにすることができる。つまり追究活動で得た事実を視点毎に整理し、事実をもとに自分の考えを確かにしていくことができる本教材は、「考えマップ」を作成し学習していくことに適した教材であるといえる。

3、こんな目標で（単元の目標）

- 小石原村の人々のくらしが小石原焼と深く関係している様子や、伝統産業として位置づいている小石原焼が、これからも発展し続けようとしている様子に関心を持ち、意欲的に調べることができる。（関心・意欲）
- 小石原焼が受け継がれてきた理由を「考えマップ」に表現し、追究活動や交流活動を通じた自分の考えの変容を「考えマップ」に表現していくことで、自分の考えを深め、確実にしていくことができる。（思考・判断）
- 小石原焼の様子や小石原焼に関わる小石原村の人々のくらしを、焼き物作りやフィールドワークなどの追究活動を積極的におこない、追究した過程や結果を分かりやすく表現することができる。（資料活用・表現）
- 自然条件を生かし伝統を守りながらも、時代のニーズにあった作品作りに取り組み続ける窯元の人々の工夫や努力、地場産業としての小石原焼と深くかかわる小石原村の人たちのくらしについて理解することができる。（知識・理解）

4、こんな手だてで（指導観）

① 位置づけについて

○ 学習問題の設定と自己評価活動の位置づけについて

子どもたちが単元を通して追究活動を行い、調べた事実をもとにして自分なりの価値判断できるような学習問題を設定する。

そこでまず、自分たちが住んでいる地域と小石原村との違いを自然環境と産業の視点から明確化させる。そして、300年以上受け継がれてきた秘密（理由）を、焼き物作りの様子と焼き物に関わる村の人たちの取り組みの2つの視点から調べていくことで、これからも小石原焼のよさが受け継がれていくためにはどうしたらよいかという自分なりの考えが導きだせるようにする。

子どもたちの価値判断が何を根拠になされているのか、またその価値判断が最初の予想からどのような過程を経てなされているのかを、「考えマップ」に表現していくことで見取っていくことができると考える。

「考えマップ」を構成する要素である価値判断を伴う学習問題とその予想・追究活動から得た事実をつないでいく線とそこから導き出される自分の考え、これら一連の学習過程を「考えマップ」に表現していくことは、子どもが自らの考えを確かにしていくことにつながると考える。

また、「考えマップ」と合わせて「振り返りコメント」を使って毎時の振り返りと、その蓄積である自分の学習の足跡を振り返ることで、自分の考えがどのような道筋で作られてきたかをつかむことができる。それは子ども自身が見通しを持ち意欲的に学習活動を行い、達成感ややる気を持たせることにつながると考える。

○ 交流活動の設定と自己評価活動の位置づけについて

学習過程の各段階に交流活動を位置づけていく。交流活動を行うことで、子どもは他者からの情報をもとに自分の考えを見直すことができる。つまり交流活動を通じた自己評価活動を行うことで、主観的なものになりやすい自己評価が、より客観的な自己評価ができるようになる。またこの交流活動に「考えマップ」を組み合わせることで、交流前の自分の考えと交流後の自分の考えの変容を子ども自身が捉えることができ、考えを確かにしていくことができると考える。

「つかむ段階」では、学習問題に対する自分の考えを基にした交流活動を仕組むことで、予想とその根拠を明確にし、追究計画に基づく調べ活動ができるようにする。

「さぐる段階」での交流活動では、自分の追究活動を基に同じ予想を立てた友達同士で意見交流を行い、調べた事実とさらに深く追究する事実とを明らかにし、課題解決に向けて自分の考えを確かにしていくための再調査の視点を明らかにしていく。ここでは、友達からもらったアドバイスカードをもとに、何をどのようにして調べ直すのか、再調査の視点をより明確にする。

「まとめる段階」では、今までの追究活動を振り返り、違った予想を立てたグループとの交流を通して、自分の考えを別の視点から振り返り、再構成していくことで自分の考えを確かに行うことができるようにする。

② 自己評価活動の形式と方法について

子どもたちが自己評価活動を行う際、自分で自分の学習活動を振り返る「個人的自己評価」と、友達の意見をもとに、自分の学習活動を振り返る「共同的自己評価」を学習場面やねらいに応じて使い分けていく。

「個人的自己評価」は毎時間行い、自分の考えの変容と学習の足跡を認識し、課題解決に向け子ども自身が学習の方向性、自分の考えを確かにしていくことができるようにする。ここでは、評価項目を決め同じ観点で評価する「自己チェック項目」（図式化）と、めあてにそって自分の学習を振り返る「振り返りコメント」（言語化）を行う。

「共同的自己評価」は、「つかむ段階」「さぐる段階」「まとめる段階」の各交流活動後に行うことで、他者からの視点をもとに自己の振り返りができるようにする。また、共同的自己評価では「考えマップ」を用い、図式化しておこなうことで、考えの変容を視覚的に見とれるようにする。「考えマップ」は、交流場面を通じた考えの変容が見とれるように、課題に対して最初に自分の考えを書く場面と3つの交流場面後に行う。ここでは、「考えマップ」にマップに書かれた事実の根拠となる考えを書かせ（言語化）することで、子ども自身が自分の考えを自己認識できるようにする。

交流活動

段 階	考えを確かにする自己評価活動	自ら考える自己評価活動
(つかむ段階) 社会事象に対し、 自分なりの考えを つくる	○ 自分たちの住む地域と異なった自然環境の中で、伝統的に石原焼が受け継がれていることと、日常生活のさまざまな場面で小石原焼が使われていることを知り、小石原焼が受け継がれているわけについて自分の考えを持つ。	○ 自分たちの住む地域との違いから、出会った社会的事実に関心を持つことができる。 ○ 小石原焼がもつよさに関心を持ち、学習問題に対して予想を立て、追究計画を立てることができる。
(さぐる段階) 社会事象の特色や 意味を考える	○ 同じ予想のグループ内で中間交流を行い、予想の根拠となる事実を共有したり、他者からの視点で自分の考えを見直していくことで、自分の考えを確かにしていくことができる。	○ 自分の追究活動のよい点や不十分な点を認識し、さらに深く追究することができる。
(いかす段階) 見方・考え方を深 めるための児童な りの価値判断を問 う。	○ 自分と違った予想を立てた友達の考えを加味しながら、自分の考えを再構成し、考えを確かにするすることができる。 ○ 学習したことを基に、自分の地域に振返って考えることができる。	○ 学習問題に対して、自分と違った見方をした友達の考えをとりいれながら、複数の事実をもとに自分なりの答えをもつことができる。

5、指導計画

全18時間

段 階	学習活動と内容	配 時	自ら考える			
			考えを 確かにする自己評価		自己評価	
			交流 活動	考えマップ	振り返り コメント	振り返り 作文
つ か む	<p>1、小石原村の地理的位置・自然環境について知り、小石原焼に関心を持つ。</p> <p>(1) 小石原村の概要を調べる</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 小石原村の四季の様子《写真》 ○ 村の様子（自然豊か、焼き物盛ん）《VDR》 <p>(2) 小石原焼と小石原焼で賑う村の様子について知る。</p> <p>① 村をあげての取り組み「民陶村祭り」について調べる。</p> <p>※ 人物との出会い①（村役場小林さん）【ビデオ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・民陶村祭りの歴史 ・村あげてのPR，パンフレット ・小石原焼は村の基幹産業 ・小石原小学校の取り組み <p>② 小石原焼の歴史について調べる。</p> <p>※ 人物との出会い②（窯元梶原さん）【ビデオ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小石原焼の起源（300年以上の伝統、特色） ・作品作りの様子 ・飛びかんなの技法（伝統技法） <p>2、小石原焼に触れる活動を通し、学習問題を作る。</p> <p>(1) ろくろを回して焼き物作りに挑戦する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・うまく作れない。 ・作品紹介（伝統的な作品、新しい作風） <p>(2) 学習問題をつかみ、予想を立てる。</p>	3		○	○	○
		①				
		①				
		1				
		工				
		①				
			○	○		○

《学習問題》

小石原焼が、300年以上も受けつがれているひけつは何だろうか？

【受け継がれているひけつ（予想）】

焼き物作りに携わる人たちの「よさ」が伝わる作品づくりにひけつがあるからではないか。
(窯元：梶原さん)

村の人たちが、小石原焼のよさを伝える取り組みにひけつがあるのではないか。
(村役場：小林さん)

窯元梶原さん

- ・伝統技法の受け継ぎ
- ・人々のニーズにあった作品づくり
- ・近くで取れる陶土
- ・共同窯の精神（昔は1つの窯で焼いていた）

村役場小林さん

- ・道の駅設立
- ・民陶村祭りの企画
- ・絵皿コンテストなどイベント企画
- ・小学校での取り組み

さ
ぐ
る

- 3、予想をもとに調べる計画を立て、考えを練り上げる。 2
- (1) 調べる計画をたてる。 ①
- (2) 全体交流し、考えマップ①を作成する。 ① ◎

- 4、小石原焼に見学に行き、梶原さんの作品作りの様子を観察したり、村役場を訪問したりしてフィールドワークをする。 5

- (1) 計画に沿って調べ活動をする。 ④
- 小石原焼の「よさ」「伝統」に触れる。(共通体験)
 - ・窯元見学（作業場、登り窯、作品）
 - ・唐臼見学、皿山地区の各窯元めぐり
 - 課題別に追究活動をする。

《窯元の工夫・努力》

- ・焼き物作りの様子を見学し、インタビュー等取材。
- ・粘土工場見学

《村の人たちの取り組み》

- ・役場での取材。
- ・「道の駅」で店の人や客への取材
- ・小石原小へのメール

ま
と
め
る

- (2) 調べてわかった事実をまとめる。 ①

- 5、調べて分かったことをもとに中間交流をし、再度追究する視点を明確化する。(同質グループ内での交流) 3

- (1) 自分が調べて分かったことを発表し、意見交流をする。 ①

- (2) 考えマップ②に自分の考えの変容を書く。 ◎

- (3) 再度追究の視点を立て、不十分な点を再調査する。 ②



6、調べて分かったことを表現物にまとめて交流し、自分の考えを作る。	2	○	○	○
(1) 調べて分かったことを表現物にまとめる。	①	↓	↓	↓
(2) 学習問題の答えについて話し合い、考えを上げる。	①	○	○	○
小石原焼の「よさ」である、村で取れる原料を使い伝統的な技法を生かした作品作り・人々の好みにあった作品を作り続ける努力と、その「よさ」を伝え続けていこう村の人たちの取り組みが、小石原焼が300年以上も受けつがれている秘訣です。	◎			
(3) 考えマップ③に自分の考えをまとめる。				
7、学習したことを振り返って作文に書き、お世話になった方に送る。	1			
8、県内で生産されている伝統的な生産品を調べる。	1	○	○	○

学習活動と教師の手だて (※)	子どもの考えが確かになる過程	
<p>1. 本時学習のめあてを確かめる。</p>	<p>《窯元の工夫・努力》</p>	<p>《村の取り組み》</p>
<p>交流したことをもとに学習課題の答えを考え、自分の「考えマップ」を見なおそう。</p>	<p>【交流前の自分の考え】</p>	<p>【交流前の自分の考え】</p>
<p>2. 学習課題の答えを「考えマップ」を基に説明し、疑問を出し合う等して話し合う。</p>	<p>「小石原焼は、近くでとれる原料をもとにして作られているから、原料がなくなる心配がなかった。また、とびかなな等伝統の技法を大切に、お客さんが喜ぶようないろんな作品を作ってきたことが、300年以上も受け継がれてきた秘訣です。」</p>	<p>「小石原焼の魅力を伝えるためにお祭りを開いたり、小石原焼のよさを知ってもらうために体験活動を取り入れるなど、村の人の取り組みが小石原焼が300年以上も受け継がれてきた秘訣だと思います。」</p>
<p>(1) グループ別に発表する。</p>	<p>①A『窯元の工夫・努力』</p>	<p>②B『村の取り組み』</p>
<p>②B『村の取り組み』</p>	<p>【発表の手順】(Bも同様にI、IIを行う)</p>	<p>【発表の手順】(Bも同様にI、IIを行う)</p>
<p>I. グループ代表児童が説明する。</p>	<p>質問</p>	<p>質問</p>
<p>※ 考えの根拠が明らかになるように、手順に従って発表する。</p>	<p>・ 原料がなぜ窯元の工夫や努力になるのですか？</p>	<p>・ 『粘土のみりよく』は、村の人の取り組みと関係ないのでは？</p>
<p>① 学習課題の答えを言う。</p>	<p>・ 原料と山を結んだ線の意味が「近くでとれる」になっていますが、どんな意味なのですか？</p>	<p>・ 『とくさんぶつちよくばい所』で野菜とかを売る事と、小石原焼がどう関係しているのですか？</p>
<p>② 答えの根拠となる事実、事実と事実をつなぐ線の説明をする。</p>	<p>相手グループの発表で分かったこと</p>	<p>相手グループの発表で分かったこと</p>
<p>③ 学習課題とその答えを結ぶ全体の説明をする。</p>	<p>・ 伝統産業会館など体験活動ができる場所が作り、小石原のよさを伝えてきたこと。</p>	<p>・ 窯元の人が焼き物を作る時の気持ち</p>
<p>II. 質問や意見を発表する。</p>	<p>【小石原焼のよさを伝え、広めるための努力をしている村の人の取り組みに目を向けている姿】</p>	<p>【作る人の立場に目を向けている姿】</p>
<p>※ 発表に対する質問をしたり、相手の考えで納得できたところを段階を踏んで発表する。</p>	<p>「たくさんの人に小石原焼のよさを知ってもらうために、様々な取り組みをしているんだな」</p>	<p>「買う人の気持ちになって、心をこめて作る、職人さんの気持ちも大切なんだな」</p>
<p>① 事実・線の意味の質問</p>	<p>※ 窯元の工夫・努力である伝統的な技法や職人さんの心は、「小石原焼のよさ」であり村の人が伝えようとしたものと共通する。</p>	<p>※ 村の取り組みが「小石原焼のよさ」を伝えることから、窯元の工夫・努力と共通する。</p>
<p>② 相手の考えについての意見</p>	<p>【小石原焼のよさを共通認識】</p>	<p>【小石原焼のよさを共通認識】</p>
<p>③ 相手の考えで分かったところを発表</p>	<p>「小石原焼のよさを受け継いでいく工夫や努力と、そのよさをいろんな人に知ってもらうための取り組みがあって、小石原焼は受け継がれてきたんだな。」</p>	<p>「小石原焼のよさとは、職人さんが買う人の事を考え、心をこめて伝統の技術を生かした作品を作っていることとしていく気持ちのことなんだね。」</p>
<p>(2) お互いの共通点「小石原焼のよさ」について考える。</p>	<p>※ 窯元の工夫・努力グループの考えをもとにしていくことで、共通点に気づかせていく。</p>	<p>※ 村の取り組みが「小石原焼のよさ」を伝えることから、窯元の工夫・努力と共通する。</p>
<p>※ 「小石原焼のよさ」について考えが深まらない時は、双方の立場を変えて考えさせる。</p>	<p>【小石原焼のよさを共通認識】</p>	<p>【小石原焼のよさを共通認識】</p>
<p>3. 交流活動をもとにして自分の考えがどう変わったか「考えマップ」を修正する。</p>	<p>「小石原焼のよさ」である、村で取れる原料を使い伝統的な技法を生かした作品作り・買う人の事を考えてつくる職人さんの心、そして、その「小石原焼のよさ」を伝えようとする村の人たちの取り組みが合わさったことが、小石原焼が300年以上も受け継がれている秘訣です。</p>	<p>「小石原焼のよさとは、職人さんが買う人の事を考え、心をこめて伝統の技術を生かした作品を作っていることとしていく気持ちのことなんだね。」</p>
<p>※ 提示されたマップをもとに、説明を聞いて自分の考えが確かになったところは線を太くし、別の視点からの考えが加わった所には、横から線を入れていく等のマップ書き方を例示する。</p>	<p>【確かになった自分の考え】</p>	<p>【確かになった自分の考え】</p>
<p>4. 修正した「考えマップ」をもとに自分の考えの変容を「振り返りコメント」に書く。</p>	<p>「最初は、小石原焼のよさを広めようとする村の人の取り組みがあったから、ずっと受け継がれて来ているのだと思っていました。でも友達発表を聞いて、小石原焼のよさは買う人のことを考えて心をこめて作っている職人さんの心であり、また、近くで取れる粘土が特みりよくであり、小石原焼のよさとそのよさを広めようとする取り組みが合わさったから、300年以上も受け継がれてきたのだと思いました。」</p>	<p>「最初は、小石原焼のよさを広めようとする村の人の取り組みがあったから、ずっと受け継がれて来ているのだと思っていました。でも友達発表を聞いて、小石原焼のよさは買う人のことを考えて心をこめて作っている職人さんの心であり、また、近くで取れる粘土が特みりよくであり、小石原焼のよさとそのよさを広めようとする取り組みが合わさったから、300年以上も受け継がれてきたのだと思いました。」</p>
<p>また、「チェック項目」に記入することで、今日の学習全体の振り返りをする。</p>	<p>※ 自分の考えが変わったところや新たに分かった事等、具体的に記述している子の文章を紹介しモデルにさせる。</p>	<p>※ 自分の考えが変わったところや新たに分かった事等、具体的に記述している子の文章を紹介しモデルにさせる。</p>